

紙相撲新聞

第156回本場所
四日目～七日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

千代照綱 1敗

若ノ嶋、大神楽ら2敗で追走

春ノ翔、佐賀海は3敗で踏止る

【第百五十五回本場所四日目～七日目】
5月28日に四日目五日目、6月4日に中日七日目と2週連続で計4日間の開催となった。五日目を終えた時点では、新入幕の綱乃花がただ一人5連勝とし、それを追っての1敗は大関千代鈴、小結鹿富士、平幕の玄武岩、照の王、超刃、六歌仙の6力士。



↑ 中日六日目、大関千代鈴と小結鹿富士が1敗で激突。横綱3人を破り勢いに乗る鹿富士だったが、千代鈴に先手を奪われ、そのまま寄り切りに敗れた。千代鈴は七日目も出羽翼を倒し1敗を堅守した。

↓ 中日、注目の一番は照の王対綱乃花戦。新入幕で5連勝の綱花をベテラン照王が止めた。



友砂親方が「こいつは末は横綱大関を目指せる逸材だ！」と惚れ込んで一門の朝日松理事長に「理事長の現役時代の四股名を暫にもらえないだろうか？」と懇願して譲り受けて改名しただけのことはあり、ともぎ取って改名しただけのことはあり、新入幕ながら堂々たる相撲で白星を並べた。

「綱乃花が前半戦で勝ちこんで、上位陣が崩れるようなことがあれば、綱乃花に優勝の目が出てくる可能性があるね」と場所前にと予想を口にしていた友砂親方。まさにそのような様相になってきている。

そのような中で中日、七日目を終えて、全勝だった綱乃花が中日に照の王に敗れて初黒星を喫して全勝がいなくなり、1敗の大関千代鈴、平幕の照の王、綱乃花の3人が優勝争いの先頭に立ち、これを横綱若ノ嶋、大関大神楽、小結鹿富士、平幕の玄武岩、超刃の5力士が2敗で追う展開となった。また、中日、七日目は横綱大関陣が全員揃って連勝した。

「綱乃花はやっばり強いねえ、このまま全勝優勝か？」と錦風親方が話をむけると「まだ勝ち越してないんだから、まずは勝ち越したよ！」と心の中では「ひよつとすると全勝優勝するかも」と思いながらも謙虚に話をする友砂親方。中日は元大関照の王との対戦だったが、勝ち急いだ綱乃花が土俵中央でのど輪にいつて墓穴を掘り初黒星を喫してしまった。

後半戦の直接対戦で星の潰し合いがあれば、綱乃花が有利に働こうというものの、また、8勝の大関復帰を目指す関脇佐賀海は四日目に魁電に敗れて痛い2敗目を喫した。



魁電○(寄り切り) ●佐賀海

- 一敗 千代鈴、照の王、綱乃花
- 二敗 若ノ嶋、大神楽、鹿富士
- 玄武岩、超刃

しかし、七日目は気持ち切替え、1敗同士の対戦で玄武岩を前日とは逆に玄武岩のど輪を引落して勝ち越しを決めた。

三役陣では唯一1敗で優勝争いを引っ張る大関千代鈴。中日は3横綱を破って勢いのあつた小結鹿富士との1敗同士の対戦だったが、差し勝って寄り切りに破り大関の力を見せつけた。さらに七日目は先場所敗れている関脇出羽翼戦だったが、出羽翼のど輪を許さず完勝した。



出羽翼●(寄り切り) ○千代鈴

休場明けの横綱若ノ嶋はまだ本調子とは言えないながらも、中日に出羽翼、七日目に月山と勝間田勢を返して5勝2敗とした。錦風親方としては「まずは安心して1番勝って勝ち越して安心したい。」と横綱大関戦を控え若ノ嶋の調子に疑心暗鬼。まずは勝ち越した上で、ぜひ千秋楽まで優勝争いに加わって場所を盛り上げて欲しい。



月山●(押し倒し) ○若ノ嶋



鳥帽子●(押し倒し) ○春ノ翔